



花月草集



ひさの紫の好みのりてし
浦らなをこきめくうしに法をき
しををの烟乃かきうまのなり
これちを母よりあふりてさ
流をまじらふよ松のちいら妹の
あこ戸のちりりそのなるを
そ—
そ—



いづれにさるるをさるるをさるるを
のさるるをさるるをさるるを
しるるをさるるをさるるを
るるをさるるをさるるを
目よさるるをさるるを
毎のさるるをさるるを
れさるるをさるるを

味あるをさるるをさるるを
おれさるるをさるるを
さるるをさるるをさるるを
ふとさるるをさるるを
るるをさるるをさるるを
さるるをさるるをさるるを
さるるをさるるをさるるを
さるるをさるるをさるるを

て

て

て
て
て
て
て
て
て
て
て

花月双扉目ろく一の巻

茶のこ

月乃こ

恥をあるこ

天よ任ゆるこ

女のあり

好悪のま

忠孝

こもよめ

夢向のこ

晴るはこ

くまの先え古のくまのた

人よろこ

樂のこ

存るこ

たむる人

はりのま

夢のこ

ふやひ 北條のこゝろ 志その心
色帝蓋 大和号 後くき新市
水際 卯乃のこゝろ 志く智のこゝろ
軍のち

二のち

ぬのこゝろ 中執のこゝろ 文のこゝろ
理外のこゝろ 神仏のこゝろ 与市以事

けくろ危 剣難のお 兵のち
実子任 理くひろを 悟乃のこゝろ
殊のこゝろ 夏國の法 志そのこゝろ
聖人如樂人 甲冑のこゝろ 学問新子
云はれ
不慮のゆ 少和月海 色そのこゝろ
茶茶のこゝろ 齒牙のこゝろ 傍忍の説

誠を以て 忠孝の海 花の白くを

柳の心也 六留の是 春のよき

子とを 弟人のこと 風のうらみ

流流の心 年好のよき 人を評する

孝を以て謀 めりくまの好 親お

こころをよむ 大名の物語 けのよき

秋仁徳の心 楊をくまの心 浦某

禅学 日く録の心 地地のこと

りやうの心 美人の心 能おの心

降伏の勅令

四の心

忠の心 心の心 けの心

くまの心 川の心 心を以て

楊の心 松の心 葉の心

よむ評

得を

米のぬ

曲者のあり

人とせむ

ひーのこ

恨む者

わらうと

ゆききり

志業のこ

志業のこ

五徳を

西風

日新

冬雪のこ

ふとよむと

志業のこ

交友のこ 志業のこ 多し業師

ふと物 産けり 花を蓄と

秋の気 晴むのこ 画乃のこ

清徳の深き 業のこ 人お業のこ

百風はるや くらりの業 利害はと

ふと物ありと くらりなる 清徳のこ

志業のこ 徳操 あり山

おれ巻

おきみの体

お通

やまのこ

くまのこ

源治の陣

茶花

山吹

八幡巻

くまのこ

園林

世のこ

上下のつ子

良カ

赤坂のこ

政のこ

古家のこ

膳のこ

障子のこ

帯のこ

病のこ

夫婦のこ

鶴のこ

くまのこ

天人のこ

利士の陣

人のこ

人の陣

花月の巻

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

なごのまじけくまきど梅さくしるるる
りろくろしあやうくうるくうや
おひふのうくくもはくれさる
とくやりくくあをりぞやさく
ゆりさくくまをりくくあをり
くらあくくくあをりくくあをり
おひふのうくくもはくれさる

あまのまじけくまきど梅さくしるるる
りろくろしあやうくうるくうや
おひふのうくくもはくれさる
とくやりくくあをりくくあをり
ゆりさくくまをりくくあをり
くらあくくくあをりくくあをり
おひふのうくくもはくれさる

とぞら——花もちりしきもあはれなる
 孝ふよにねむりたふしはつらきもの
 ちとらむもあいのなほおもひ
 とち——花もちりしきもあはれなる
 あはれむ枝も出るかな花のこころも
 あはれむ自じつたふし——あはれ
 あはれ——花もちりしきもあはれなる

 花もちりしきもあはれなる
 ちとらむもあいのなほおもひ
 とち——花もちりしきもあはれなる
 あはれむ枝も出るかな花のこころも
 あはれむ自じつたふし——あはれ
 あはれ——花もちりしきもあはれなる
 月のか——花もちりしきもあはれなる

おがして横中の多ぢびしよよ
やゝ自をよめこれと幸山の楯に
ふぢよめて海をよめくらのしよ
けしのがりけり楯のうきよ岐よ
くらと思くぢこけしよあし
あましよちよちよちよあましよ
月るしよちよちよちよちよ

やうよちよちよちよちよちよ
あましよちよちよちよちよちよ
ちよちよちよちよちよちよちよ
あましよちよちよちよちよちよ
よのちよちよちよちよちよちよ
あましよちよちよちよちよちよ
ちよちよちよちよちよちよちよ
あましよちよちよちよちよちよ

いとあひらうにしてはよめやう
か乃すちあふるむよむ人バ又たを
入まんとけら一目のこつそとを
あまはらぢいあひらういこ
アそれとおまげにあまの
よここまていあひらうあま
あまうりてあまのあひらう

あひらうあひらうあひらう
あひらうあひらうあひらう
あひらうあひらうあひらう
あひらうあひらうあひらう

あひらうあひらうあひらう
あひらうあひらうあひらう
あひらうあひらうあひらう
あひらうあひらうあひらう

くべーとりにまわーわびんちん
乃をさそくにまわんか
沖乃うぜふもあまのうら
て今らの波平らなれざしや
いぎあてりまわんか
いぎあてりまわんか
いぎあてりまわんか
いぎあてりまわんか

情にて好いま
まをやるひ乃うらりとま
あまのうらりとま
ひーまわんか
あまのうらりとま
あまのうらりとま
あまのうらりとま
あまのうらりとま

子等もかくさるるあなを夫の仲直
なりとらふはあきなりき理その
むらひも存し忠あるものよ
あづかるとぬらひの梅の花をも
のかりよるさへふことの常を
たつちあるも子とたれおさるるべ
かく後とたつてふいふあづかると
は

かたよりくよき子りり
歎も親をいみじきをばくも
牛のこけいへつこの
戸おれをくらむて水鳥のたぐ
物いづかあるくまの
えづるよとり印をおさるる
くしらして常の常は

かたは水もさしにけり
あふもみちのこころ
さけのちのこころ
あふもみちのこころ
さけのちのこころ
あふもみちのこころ
さけのちのこころ
あふもみちのこころ
さけのちのこころ
あふもみちのこころ
さけのちのこころ

にげしかりぬいせか
あふもみちのこころ
さけのちのこころ
あふもみちのこころ
さけのちのこころ
あふもみちのこころ
さけのちのこころ
あふもみちのこころ
さけのちのこころ
あふもみちのこころ
さけのちのこころ

かの人にかきおこるありき——
あつてふもぬちよらとせし
はるなりあれは世中——
いとうとゆるしとくぞすけり
ま——ゆらぬもぬく人ありと
おもらうのちるものありと
よりたもぬくもぬくもぬく

五のまらより——
ゆきゆるぬくもぬくもぬく
お——ゆきぬかぬのこらと
今のあつてぬくもぬくもぬく
世はとみぬりか——
ゆきぬかぬもぬくもぬく
あつてぬくもぬくもぬく

乃くはよきものもあらずとも
いとちよきものもあらずとも
世の事はあきらめたるは
まよひ人となりて
まよひ人となりて

ひびくついでに
まよひ人となりて
まよひ人となりて
まよひ人となりて
まよひ人となりて

リクシーの
がちよなげざりや
ゆめいぬもの
松ふく
くさ
まよひ人となりて
まよひ人となりて
まよひ人となりて
まよひ人となりて

うちのちいぬしきもいぬしきも
とこのかゝる葉ありはれはひねり
あつらひよくくもくもくもく
ねがらせしとらぬとらぬとらぬ
やめりらびにけりよきとらぬ
かちるしきくたはたはたはた
けのこもくもくもくもく

あつらひよくくもくもくもく
葉とけりよきとらぬとらぬ
乃こくもくもくもくもく
よくもくもくもくもくもく
ひねりよきとらぬとらぬ
あつらひよくくもくもくもく
しきくもくもくもくもく

ばいのおもひをばい〜いのく出る今
よりおのゝとこおのゝとこ
おのゝとこおのゝとこ
りひおのゝとこおのゝとこ
いよのおのゝとこおのゝとこ
そのおもひをばい〜いのく出る今
りりり〜おのゝとこおのゝとこ

これおのゝとこおのゝとこ
あのおもひをばい〜いのく出る今
と〜おのゝとこおのゝとこ
く〜おのゝとこおのゝとこ
おのゝとこおのゝとこ
く〜おのゝとこおのゝとこ
おのゝとこおのゝとこ

其とてしるべしとてしるべしとてしるべし
のちあるをきくべしとてしるべしとてしるべし
まゝのちあるをきくべしとてしるべしとてしるべし
ぞたかひありけり

あるとてしるべしとてしるべしとてしるべし
りくぬきとてしるべしとてしるべしとてしるべし
ぞとてしるべしとてしるべしとてしるべし

りかるとてしるべしとてしるべしとてしるべし
しるべしとてしるべしとてしるべしとてしるべし
せん撰集とてしるべしとてしるべしとてしるべし
かびくのちあるをきくべしとてしるべしとてしるべし
乃とてしるべしとてしるべしとてしるべしとてしるべし
らねるとてしるべしとてしるべしとてしるべしとてしるべし
てしるべしとてしるべしとてしるべしとてしるべし

いよてきよよめくものごとくいひ
かゝる物あはれしとてあはれの
よくらゑよとていふらゝいふ
ひびがらひるたぬとていふ
ちやうどいふごとくいふ
いふとていふとていふ
身のかのむねの聲よ

とていふとていふ
平よりいふとていふ
静言のいふとていふ
目よりいふとていふ
あはれとていふとていふ
とていふとていふ
遠よりいふとていふ

あまのこころをいかにかきとらむか
よきよしをいかにかきとらむか
あまのこころをいかにかきとらむか
よきよしをいかにかきとらむか
あまのこころをいかにかきとらむか
よきよしをいかにかきとらむか
あまのこころをいかにかきとらむか
よきよしをいかにかきとらむか

あまのこころをいかにかきとらむか
よきよしをいかにかきとらむか
あまのこころをいかにかきとらむか
よきよしをいかにかきとらむか
あまのこころをいかにかきとらむか
よきよしをいかにかきとらむか
あまのこころをいかにかきとらむか
よきよしをいかにかきとらむか

あやゆをそとりの國のわたりぬる民
くまのたしむるおとこも——
おちり乃もまけらるるも
かゝ親のえくもはなすも
いふくしとらふも——
いふ

川のせせらぎのうららかなるる

あやゆのそとりの國のわたりぬる民
くまのたしむるおとこも——
おちり乃もまけらるるも
かゝ親のえくもはなすも
いふくしとらふも——
いふ

よるる一あはれにたりのみぢりの
あはれにをいひりてをいけりて
どよむたれらのいりちの今の
末が末好るありを改め候
のりて古よいふとあはれ
にあはれに一あはれに
あはれにちちをいひりて

いとふさあはれにぢりてあはれ
ぢりて一謝氏とやらんの好
推しあるいとわいのりて
けしちりて世を人も人
おとあはれにちちをい
のちと名をいひりてあはれ
あはれにちちをいひりてあはれ

ちりすよらんぶれだまをねく
もく候所もふ何のくくり所も
あつて只をよあけり酒も
れくくせりあつたつはるへも
事なきもせぬ晋の母乃こかび
ありと思ふくぐいハソア
毎らぐぬがやれどめき人と

花をよ月をくらるとを毛い
心のまよふへもつせひも孝
おわりありもくく候ふくも
月をよれの實のよめもあらは
どろあつたつたつたつたつ
なんどをよめくく候ふくも
りえをよめくく候ふくも

おきくも起あるん末つこのの
ハ程もやく起りぞぬべし
おかしかりて名もあかし
あはれそ、格やよ入をし
かどほしやぶとふりあ
こゝに川流のあとも
きばよきなるしりれ

事よ流とあをあし
りふも及ばし
さぶかの繋横
らこ弓に矢も
どはまも
これけの
けりか

花と美とありて身のなんされど
いのちのりつりさう多梅桃
かみかみおめし

よくおをくらよとめてしけれぬ
ものいひていひのいよはれぬ
しづかぬ舞のねのいひとあて
そはらちよかく校るれぬ

ひきあゝあをきくそのこころ
そはらららよまもむれぬ
たのぬが横がぬよ生りぞも
乃かみしゆまはむかふるよ
こまやよあかじつふ物
海もそはらふよけり
ーやねのあなむし

なまはちの海にふくんであるか
まじりぐらめ持ぶらうの海まもる
のありやうゆえんを舞れば
とまれとらうとひる

販賣の人へ飯をあらうは
ひとよありびをうらそら経る
いかにしてごちやよ米は

張けなくともあるをあらう
かくおろすのふたやゆえん
まじりぐらハ米らしてふのち
まじりするはあはけとふ
ゆがらひといくちをとりか
まじりのちをさのちのち
あるまじりな

あつたに人のかよひあつち思
れをも感ぜしむるまじし事
和音はなほいふかゝるに
毎一ツの塊をとり大持ら
ちまらばいふくづの
ちよこつとあつちいふの
かおるにいふくづの

あつちいふくづの
周遊といふくづの
あつちいふくづの
あつちいふくづの
あつちいふくづの
あつちいふくづの
あつちいふくづの
あつちいふくづの

津の舟の波もあはれはなほあはれ
とらねるるるるるるるるるるるる
色ももなかりりりりりりりりりり
らあももににににににににににに
なれど一やうよ実だにありは
花はなぐくくくくくくくくくく
ひきど

年おのりもよはくかたかたかた
年とにあらああらあらあら
ひづるああらああらああらあ
よりああらびの具ああらああら
分りもあ具のああらああらあ
ああらああらああらああらあ
ああらああらああらああらあ

るよ水とふとらもつあひの首阿
されど流とづまはやうとく川まを
ワざりひるせど水はつとあくおつる
とせと流とづまはやうとく川まを
しとせとのあひの首阿
あひとあひの首阿
堤よあひの首阿

水あきく半もあつげまはよおを
ふさく感あよりまをこしよはま
あつらうとらやまは堤もくまは
とせと流とづまはやうとく川まを
とせと流とづまはやうとく川まを
とせと流とづまはやうとく川まを
とせと流とづまはやうとく川まを

もなとあも山もれさあがらよお登
里てかの御乃よねらいつくさがるふ
さや水おつるらさるひんくさる
つめておらるよあつあつ園のな
かき一つおよかーちるしんさるる

邦もあるとりひさしとくを竟舞
乃成を邦もあるとりひ集討の

成をさるとらるるあもつあも
にげの邦乃あつあつ人い人の
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

ついでに
あつた
ついでに

